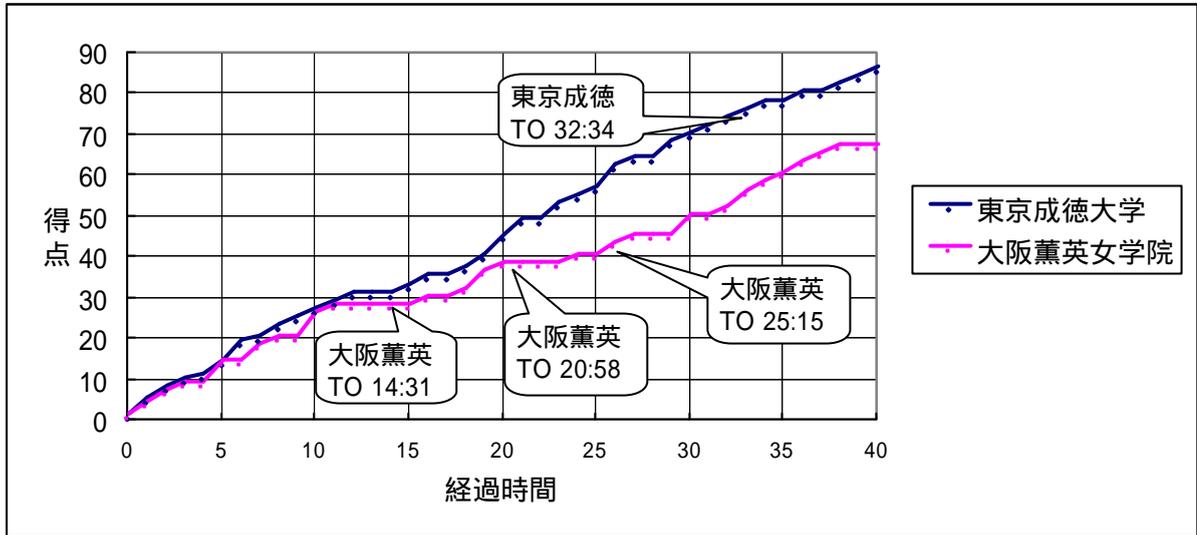


大会名	平成19年度全国高等学校総合体育大会 バスケットボール大会第60回全国高等学校 バスケットボール選手権大会	N1	10:00	女子準々決勝															
		東京成徳 大学 東京	85	<table border="1"> <tr><td>26</td><td>-</td><td>25</td></tr> <tr><td>18</td><td>-</td><td>12</td></tr> <tr><td>25</td><td>-</td><td>12</td></tr> <tr><td>16</td><td>-</td><td>17</td></tr> <tr><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> </table>	26	-	25	18	-	12	25	-	12	16	-	17	-	-	-
26	-	25																	
18	-	12																	
25	-	12																	
16	-	17																	
-	-	-																	
期日	2007年(平成19年)8月1日(水)																		
会場	鎮西スポーツセンター																		

主審 渡辺 亮 副審 安力川 剛 士



東京成徳大学

No.	氏名	点	3P	2P	FT	F
4	本田 雅衣	16	1	6	1	2
5	光山 慈能	15	0	6	3	2
6	天野 佳代子	12	0	5	2	2
7	間宮 佑圭	22	0	8	6	2
8	富田 夕貴	0	0	0	0	0
9	片山 浅美	0	0	0	0	0
10	田尻 泰葉	0	0	0	0	0
11	水野 圭子	0	0	0	0	0
12	宮崎 優子	6	2	0	0	0
13	金子 実由紀	8	2	1	0	1
14	山本 千夏	2	0	1	0	0
15	篠原 恵	4	0	1	2	2
16						
17						
18						
コーチ	下坂 須美子					
	合計	85	5	28	14	

大阪薫英女学院

No.	氏名	点	3P	2P	FT	F
4	栗原 三佳	18	1	5	5	2
5	田中 友美	11	0	5	1	2
6	安居 爽	0	0	0	0	0
7	水谷 英美	0	0	0	0	0
8	中尾 萌	0	0	0	0	0
9	鬼頭 真由美	21	2	5	5	1
10	塚本 寿美	8	0	4	0	4
11	南原 真樹子	5	0	2	1	2
12	三木 ななや	0	0	0	0	4
13	森 仁美	3	1	0	0	1
14	上畑 香奈	0	0	0	0	1
15	早川 結花	0	0	0	0	0
16						
17						
18						
コーチ	長渡 俊一					
	合計	66	4	21	12	

はスターター ( はキャプテン) 3P...3点シュート 2P...2点シュート FT...フリースロー F...ファウル

戦評

順当に勝ち上がってきた東京成徳と大阪薫英。実力校同士の準々決勝は、高さでインサイドを支配した東京成徳が粘る大阪薫英を後半突き放し、ベスト4一番乗りを果たした。

第1P、東京成徳はハーフコートマンツーマン。大阪薫英は2-3ゾーンとハーフコートマンツーマンの併用で守る。攻めでは、東京成徳は#6天野、#7間宮のセンター陣のコンビプレイを軸に内外バランスよく得点を重ねるのに対し、大阪薫英は#4栗原、#9鬼頭の果敢なドライブインで対抗し、両者一歩も引かず、26対25と東京成徳が僅かにリードして終了する。第2Pに入り、東京成徳は#5光山、#6天野、#7間宮のインサイドと#12宮崎の3Pなどで引き離しにかかる。大阪薫英も#9鬼頭、#10塚本の得点でくさがるが徐々に差をつけられ、7点差で前半終了する。

第3P、東京成徳は#4本田、#7間宮の連続得点で11点差とする。大阪薫英はタイムアウトで立て直しを図るが流れは変わらない。その後も、#7間宮を中心にインサイドを支配して一気に加点し19点差としたところで大阪薫英は2回目のタイムアウトをとる。しかし、完全に主導権を握った東京成徳が69対49と大差をつけ最終ピリオドへ。第4P、追い上げたい大阪薫英は、オールコートでプレッシャーをかけるが、東京成徳は余裕を持って85対66で逃げ切り、2年ぶりの優勝へ弾みをつけた。

記者者 堤 哲也 (所属) 佐賀県バスケットボール協会